

極楽寺だより



2016(平成28)年4月号

発行所：極楽寺 (浄土真宗本願寺派) ☎759-3803 山口県長門市三隅下野波瀬 3633 ☎0837-43-0625

春の永代経法座のご案内

慈しみの光あふれる春となりました。

生命の息吹を感じる時、お浄土の人となられた

方々が懐かしくしのばれます。

如来さまのおすくいのご恩、お育てのご恩を味わ

い、仏祖のご恩を感謝して、春の永代経法要を次の

とおりにおつとめします。お誘いあわせ、お参り下さ

い。

四月十三日(水)

昼一時半 夜七時半

四月十四日(木)

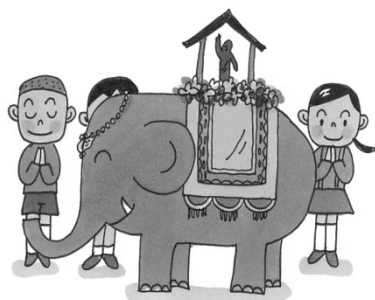
昼一時半

講師 福岡 筑後市 光伝寺住職

木村大信師

花まつり

※ 甘茶お持ち帰りをご希望の方は、どうぞお申し出下さい。



四月八日は、お釈迦さまのご誕生を祝う花まつり。花御堂を飾り、お釈迦さまの誕生時のお姿に甘茶をかけてお祝いします。花御堂は、生誕の地「ルンビニーの花園」をあらわし、甘茶は「ご誕生の際に、甘露の雨が降った」という言い伝えによるものです。

極楽寺では、春の法要の二日間、本堂に花御堂を飾ります。

ご自由に甘茶をかけ、お飲み下さい。



極楽寺だより
エッセイ

毎日、お参りしましょう！

キャンペーン 第十弾

ものがたり 物語の力



「毎日香」で有名な、老舗線香メーカーの「日本香堂」が、「尾木ママ」こと教育評論家の尾木直樹さんの指導・監修で、仏壇参りと子どもたちの「優しさ」の関係性を調査したそうです。

12歳から18歳の男女約1200人に、お

仏壇にお参りを【毎回】【時々】【しない】

の3つのグループに分け、他者への優しさ

に対する比較を行ったところ、明確な差が見

れたということ。例えば、「誰かが悩みを話すとき『そんなこと知ら

ない』とは思わない」「誰かが困っているとき、その人のためにそば

にいたい」という子は【毎回】の方が【しない】よりも、10%以上

多かったというのです。

仏壇業者らでつくる全日本宗教用具協同組合の広報担当・保志康

徳さんは、「仏壇に手を合わせるということが、感謝の気持ちを増幅

したり、見えないものに対して畏敬の念を持つたりといった点で、い

い方向に影響しているのではないか」と言われています。

（『終活読本ソナエ』2016年冬号）



尾木直樹氏

確かに「目に見えるものしか信じない」という人には、それぞれの人が持っている背景や事情、歴史という「目には見えないもの」に想像力を働かせることは、なかなか難しいのではないのでしょうか。ならば、人の心という「目には見えないもの」に、深く共感したり、汲み取ることも、できなくなってしまってもわからないではありません。そういう意味においても、心を育むはたらきが宗教にはあるということが、よくわかります。

そういえば2012年には、『地獄』という絵本が、絵本売上ランキングで1位になったということが話題となりました。きっかけは、『ママはテンパリスト』（集英社刊）というマンガ。作者の東村アキコさんが6歳の息子の子育てライフを描いたこのマンガに、地獄の絵本を読み聞かせる場面が登場したことでした。「効果はてきめん。

その日から息子がよい子に豹変しました。悪いことをしたら地獄に落とされると口で言うより、ビジュアルでイメージを植え付けたほうが効果的なのでしょう。それからは『えんま様はどこからでも見ている』と感じたのか、親の前だけではなく私がいなくても『悪いことはできない』と思ってるみたいです。』ということ、大反響。

TVの情報番組や、新聞でも大いに取り上げられました。

『絵本地獄』風濤社刊

監修 宮次男
構成 白仁成昭
中村 真

児童文学研究者の清水眞砂子さんは、アメリカ

のスミソニアン博物館を訪ね、黒人の歴史の

部屋を丹念に見て歩かれたそうです。そこには、

黒人への差別の歴史について、とても良心的に展示・解説がされてい

ました。事実を証拠だてる資料もたくさん並べられているのですが、

でも、何かもうひとつわからない。当時の黒人たちの息づかいとか、

悲しみとか、喜びとか、心の中で起こっていることが全然伝わってこ

ない。その時清水さんは、『ミス・ジェーン・ピットマン』という本

を思い出していたそうです。そこにはある黒人女性の一生が書かれて

いるだけ。しかも、作り物・フィクションの小説です。でも、黒人の

歴史・暮らしのざらざらがわかってくる。どんなふうを感じ、どんなことに、

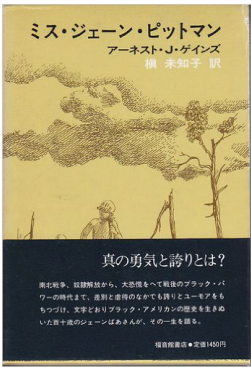
どんなふうになり、喜んだかが、手に取るように伝わってくる。

「私は館内を歩きながら、これだけの事実

を並べてもなお一冊の物語に届かないと

いうことがあるのだ、とくり返し心の中で

つぶやいていました。」



『幸せに驚く力』 清水眞砂子



「仏様なんて、しょせん物語じゃないか」「科学的ではない」と

馬鹿にする人がいます。いや、そういう人たちが多いのかもしれ

ません。しかし、真実とは「いろもなし、かたちもましまさず。しか

れば、こころもおよばれず。ことばもたえたり。」（『唯信鈔文意』）

と親鸞聖人は言われます。言葉で説明なんてできないし、私たちの心

では、とてもおおよぶことはできないのだと。その真実と出遇うために、

仏様の物語が語られているのです。いえ、物語を通して、手を合わせる

ことでしか、私たちは真実と出遇うことはできないのです。福嶋寛隆

という先生は「阿弥陀の物語は、必要にして不可欠なるフィクション」

といわれています。

「物語」には、大きな力があるのです。だからこそ、人の心を育み、

救い、豊かにもします。でも、その力の大きさがある政治的な方向に

利用した時、神仏の名の下に人を殺し、自分を殺す人間を生み出すこ

とも繋がりがねません。それは現在の世界情勢もわかり。また、

これまでの日本もそう。人間の歴史がそれを証明しています。

だからこそ、「お仏壇に手を合わせ、仏様にお参りする」という物

語の力を大切に、同時にそれがおかしな方向に行かないように、い

や私たちがそれを都合よく利用しないように、注意を払わなくてはな

らないのでしょうか。「仏様の物語」に、真摯に、謙虚に向き合うこと。

どこまでも私を振り返る「鏡」として接し、安易に利用しないこと。

『ミス・ジェーン・ピットマン』
福音館日曜文庫刊
アーネスト・J・ゲインズ

と。それが、私たちを育んで下さるのです。

しかし、お仏壇や地獄の話が、単なる「子どものしつけに良い」からという形で利用されるのはいかがなものかと思えます。まず親が手を合わせ、地獄に行くような生き方をしてはいないかと、自らを振り返ることが大切でしょう。「物語」や「人」を利用し、周りを利用するためだけの生き方は、結局「親」さえも利用するものとししか扱わない、そんな子どもを育てるのではないかと考えさせられるのです。 ■



皆さん、オシエノカケラでは、『毎日お参りしましょうキャンペーン』を連載していたのを覚えておられますか？（もう忘れられているかも・・・）

昨年は『花燃ゆ』関連等でお休みをいただきましたが、ようやく復活となりました。とはいっても、いつまで続けられるやら。もしかしたら、次回が最終回になるのかも・・・。皆々、温かく見守ってください。 ■



仏事、葬儀、納骨・・・、わからないこと、困ったことがあれば、極楽寺にご相談下さい。どうぞ、ご遠慮なく 0837 (43) 0625

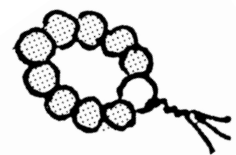


極楽寺ホームページ
<http://極楽寺.com/>

極楽寺だよりの過去の記事をはじめ、盛りだくさんの内容です。

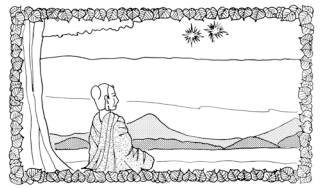
お念珠 修理いたします。

お念珠の紐は、切れるもの。特に、不吉なことではありません。お寺まで、お持ち下さい。修理いたします。



極楽寺だよりを送riませんか

都会に出ておられる子どもさん、お孫さんたちへ。有縁の方々へ。お寺から、直接郵送します。



極楽寺揭示伝道 けいじてんどう

花は言葉を
持たないが
ただ、
いのち尊しと咲く



極楽寺揭示伝道

4月の言葉

そこら辺に落ちている石ころのこと

を言います。石ころが私たち？一体ど

うということなのでしょう。

実はこれ、単なる石ころの話では

ありません。「あつてもなきに等しい

もの」「誰からもその存在を無視され

たもの」のことを石ころに譬えられたのです。

私たちは石ころに日々注意を払ったり、その

存在を意識することはありません。同じよう

に、社会からそして仏教からも疎外され、存

在を無視された、底辺に生きる人々があつた

のです。親鸞聖人は阿弥陀様の光を通して、

そんな人たちのいのちの輝きを見出し、共に

生きる「われら」と名のられたのでした。

続けてこうも言われます。「いし・かはら・

つぶてなどを、よくこがねとなさしめんが

ごとしとたとへたまへるなり」まさに阿弥陀

様のはたらきは、石ころを黄金に変えるよう

に、私たちのいのちを輝かせる教えなの

だと。

では、私は自身の輝きを見出しているの
でしょうか。周りのいのちの輝きを見抜いて
いるのでしょうか。卑しい見方をしていること
にも気がつかない。そんな深い迷いの中に
いることを、まず自覚しなくてはならないよう
です。 ■

この言葉は、どなたのものかはわかりませ
んが、この方すごいと思います。

道端の草花にいのちの輝きを見出し、尊さを
学び、そして自分の生き方を振り返ってお
られる。私はというと、草花に「役に立つか
立たないか」という自分のものさしを押し付
けて、その花の輝きを見抜こうともししていま
せんでした。そんな薄っぺらなものの見方が、
恥ずかしく思えてきます。卑しい見方でも
を見れば卑しく映り、尊い見方で見れば、尊
く見えるということなのでしょう。

親鸞聖人の言葉に、「いし・かはら・つぶて
のわれらなり」（唯信鈔文意）というものがあ
ります。「いし・かはら・つぶて」とは、



悲しみを通さない
見えてこない
世界がある



3月の言葉

極楽寺掲示伝道

作家の五木寛之さんが、アメリカの医科大

学でのある実験を紹介されています。それは、

集まった被験者の体に電極をつけ、細胞の動

きをモニターで観察するもの。まず、被験者

にうれしかったこと、楽しかったことを考え

てもらおうと、細胞が生き生きと活性化し、免疫

力が高まることのはっきりわかるというの

です。次に、最も辛かったこと、切なかった

こと、悲しかったことを心の底から回想して

もらいます。みんなじっと目をつぶって考え

込んでいくうちに、ぼろぼろ涙を流す人も出

てきます。すると驚くことに、最も悲しい状

態に自分の心をゆだねたときにも同じように

人間の細胞は生き生きと動き始め、免疫力が

高まることのはっきりと見えたのです。▼

五木さんは、「そうか、人間というものは、

喜ぶだけではなくて、本当の意味で深く悲し

むことによっても人間の命というものを生き

生きと活性化させることができるのだな」と

思ったと言われます。（『自分という奇蹟』五木

寛之）

「悲」という漢字は、「非」と「心」という字

で成り立っています。「非」とは、鳥が翼を

広げて、両方から引っ張られ、引き裂かれて

いる状態をあらわします。つまり、「悲」とは

引き裂かれた心という意味なのです。大切な

人を亡くした時、別れねばならない現実と、

別れたくない思いとの相反する心に引き裂か

れている状態のとき、人は悲しむのでしよう。

ということ、大切に思うからこそ、悲し

みも深いということ。大切に思えないの

であれば、悲しくはありません。つまり悲し

みの深さは、大切に思う深さでもあるのだと

いえるでしょう。悲しみを通すからこそ、▼

大切な人や大切なことの尊さを味わうこと
ができる。ならば、悲しみが人を生き生きと
させることも、うなずくことができます。

近頃は外灯が完備されて、夜でも安心して
歩くことができるようになりました。ところ
が、外灯が常に灯る田んぼのお米は育ちが悪

いという話を聞きました。明るいだけでは育
たない。生育には、暗闇の時間が必要だとい
うことなのでしょう。それと同様に、人生に

おいても深く悲しむ時間があるからこそ、豊
かな生育があることを教えられるのです。考
えてみれば、深く悲しむことのない人は、相

手の悲しみを尊重することはできません。大
切な人を失った悲しみを通すからこそ、その
悲しみに寄り添えることができます。

「夜の闇の暗さや濃さを知っている人間だけ
が、朝の光や暁の光を見て、朝が来たと感動

できるのではないか。あるいは、日中の激し
い炎天の中で生き続けた人間だけが、黄昏

がおりてきて、やさしい夜が訪れてくること
の喜びを知ることができるのではないか」

(同 五木寛之)

親鸞聖人は、ただ阿弥陀如来の救いをよろこばれているわけではありません。その光の前に立ち上がる黒々とした自らの闇を深く見つめておられます。その悲しみを、闇の濃さを通してよろこびだからこそ、長い歴史を超えた私たちの胸を強く揺さぶるのでしよう。

五木さんは、岡本かの子さんの「歳々にわが悲しみは深くして いよよ華やぐ いのちなりけり」という歌が大好きなのだそうです。

一年一年自分の悲しみや老いの辛さ、人生の責め苦というものは積み重なって深まっていくばかりである。しかし、そういうものから目をそらさずに、悲しみや辛さと正面からしっかりとつき合っていくと、いつの間にかその悲しみのかたに、生き生きと華やいでくる自分の命というものが見えるような気がする。深く味わいたいものです。■



2月の言葉

問題です。次の【 】に入る漢字は、何でしょう。

「可愛い子には、【 】をさせよ」

普通は、「旅」という字を入れますよね。我が子が可愛いのなら、親の元に置いて甘やかすことをせず、世の中の辛さや苦しみを経験させたほうが良いということわざです。本当にそうだと思います。現在子育てに苦悩中である私の経験からも、親は可愛い子ほど冷静に見ることができません。やはり、色々な方々に関わっていただかなくては、親だけでは子どもは育てられないのです。周りの方々にお礼を言わねばならないと、ヒシヒシと感じております。

ところが最近では、この【 】に別の漢

字を入れる親が増えているとか。では、何を
入れるのでしょうか。答えは、「楽」。最近の
トレンドは、「かわいい子には、楽をさせよ」
だそうです。

曹洞宗の尼僧・青山俊童さんが、タクシー
に乗られた時のこと。運転手さんが語りかけ
てくれました。「今、大型連休を利用し、
海外旅行をしようという家族を空港まで送
ってきたところです。しかし、金持ちの家で
育った子どもは可哀相ですな。」と。

面白いことをいう運転手さんですね。普通な
ら「うらやましいですな」と言いそうなもの
ですが。

「一生のうちには、お金に困る日が来るかも
しれない。行きたいところへはいつでも連れ
て行ってもらえ、欲しいものは何でも買って
もらえる環境で育ってしまうと、困ったとき
にもブレーキのかからない人間に育ってし
まうから惨めですわな。私なんかは、貧しい
上に十二人兄弟。焼き芋さえも一つずつ



は買ってもらえず、みんなで分け合って食べました。でも、分け合って食べた一口の焼き芋のおいしかったことは、今でも忘れられません。一つの焼き芋を兄弟仲良く分けて食べる喜び、たった一口の焼き芋に幸せを感じるアンテナを育ててもらうことができたのは、貧しい家で、大勢の兄弟と育ったお陰ですよ。」運転手さんの言葉に耳を傾けながら、青山俊董尼はルソーという哲学者が、「子どもをまちがいなく不幸にする唯一の方法は、いつでも欲しいものは買って与え、行きたいところへは連れて行ってやることだ」と語っていたことを思い出したそうです。そして、物は分けるほどに小さくなるが、それと反比例して喜びは分けるほどに大きくなるのに、その分かち合う喜び、充実感を知らないまま育つことは可哀相なことだと、改めて思ったといわれます。

仏教には、「ウザイガキ」という言葉があります。近頃巷でよく使われる「ウザイ」「キモイ」というような若者言葉ではありません。漢字で書くと「有財餓鬼」。たくさんのお金に囲まれていても、まだ欲しいと貪っている生き方を言うのです。人間の欲望には限りがありません。どこまでいっても満たされることなどないのです。多くを欲しがる思いが、逆に自分を貧しくするのだと教えられます。

現代社会は、欲望を満たすことで幸せになろうとしてきましたが、幸せになるどころか今や欲望に振り回され、自分を見失った生き方が広がってはいないでしょうか。今こそ、「方向を間違えてはいないか」と呼びかけられる仏様の声に耳を傾けなくてはと、痛感させられるこの頃です。■

お経本もね



ここに
注意!

作法一口メモ

お念珠は、大切に扱います。
足の裏のつかない場所に置きましょう。

お念珠は大切なもの。膝の上や、座布団の上に置きましょう。

お知らせ

極楽寺のお世話をして下さった、小林明元総代と鼻野直行元世話人がご逝去されました。

長い間、本当に有り難うございました。

□今年、暖かな冬だと思っていたら、突然の厳しい寒さに襲われ、それがおさまり暖かくなったかと思うと、また厳しい寒さが……。これほど目まぐるしく気候が変わると、人の身体にも影響が大きくなります。皆さま、どうぞご自愛下さい。□3月11日、東日本大震災から5年目を迎えました。あの日TVに映された景色が、現実だとはとても思えませんでしたが、今でもその傷跡は深く重く残っているようです。□自然の大きさの前に、私たち人間はもっと謙虚であるべきなのでしょう。震災後に気付かされたことを、もう一度噛みしめてみたいと思います。(住職)